

# ちばだい プレス

CHIBADAI  
PRESS

千葉大学  
広報誌

2019

VOL.

50

WINTER

千葉大学病院  
Chiba University Hospital



## 特集

千葉大学創立 70 周年記念シンポジウムを開催しました

よくわかる!! 千葉大学医学部附属病院 DMAT

千葉大学 OBOG インタビュー



CHIBA UNIVERSITY

# 千葉大学創立70周年記念シンポジウムを

# 開催しました



けやき会館  
前では、千葉大ニ  
学マスコット  
シ・イノ・マツが  
お出迎え



## 千葉大学創立70周年記念シンポジウム

約140年前に設立された千葉師範学校や公立病院

などを前身として、1949年に5学部から成る  
新制国立大学としてスタートした千葉大学は、

このたび創立70周年という区切りを迎えました。

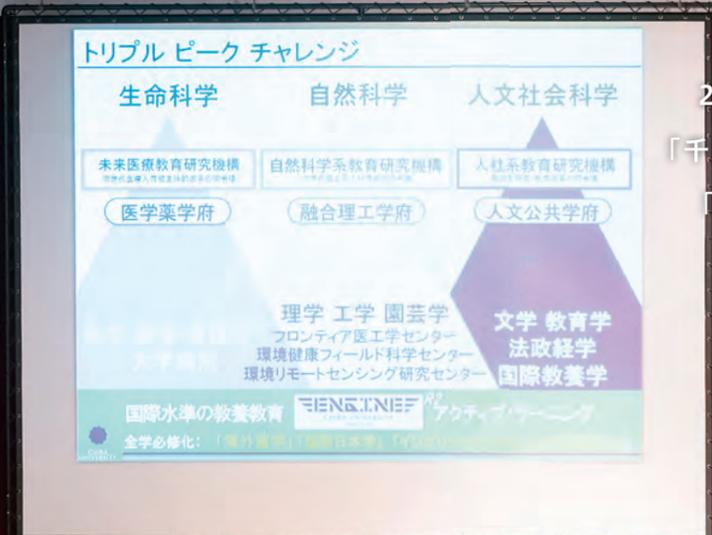
2019年11月2日、西千葉キャンパスけやき会館にて

「千葉大学が挑むグローバル人材育成戦略」をテーマに

「千葉大学創立70周年記念シンポジウム」を開催し、

千葉県内の各自治体や企業関係者ら

約200名が出席しました。



70周年記念挨拶を行う徳久学長

千葉大学合唱団による学歌斉唱によって華やかに幕を開けた第1部では、徳久剛史学長から70周年記念挨拶、玉上晃文部科学省大臣官房審議官から文部科学大臣祝辞代読があり、前駐日パナマ共和国特命全権大使 Ritter Nobel DIAZ GOMEZ 名誉博士による記念講演が行われました。

第2部は佐藤之彦副学長から、千葉大学が2020年度から開始する学生の全員留学やコミュニケーション英語教育の強化を含む「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”(Enhanced Network for Global Innovative Education)」および海外3キャンパスに関する説明があり、海外キャンパスを置いているマヒドン大学国際ナショナルカレッジ Alexander Nanni 副学部長、カリフォルニア大学サンディエゴ校 千葉大学-UCサンディエゴ国際粘膜炎・アレルギー治療学センター 清野宏サンディエゴ研究センター長による講演が行われました。



玉上審議官



佐藤副学長



Alexander Nanni 副学部長



清野サンディエゴ研究センター長

### 記念講演

第3部では、学術研究活動や課外活動において優秀な成績を修めた学生に対する学長表彰があり、国際ジャーナリストのモーリー・ロバートソンさんによる記念講演、千葉大学OBでお笑い芸人の「ばいんはうす」ロベスさんと、同じく千葉大学OGの田端明日香さんによる競技ダンスが披露されました。



Ritter Nobel DIAZ GOMEZ 名誉博士



モーリー・ロバートソンさん



黒いシックな衣装に身を包んだロベスさんと田端さんは、まず「ジャイブ」、闘牛をテーマにした「バンドブレ」を披露。田端さんがピンクの華やかな衣装に着替え、「サンバ」、ロマンティックな「ルンバ」、ラテン種目の花形「チャチャチャ」と、計5種のダンスパフォーマンスを披露し、会場内は大きな拍手に包まれました。

### 校友会総会を同日開催

シンポジウムと同日に、けやき会館レセプションホールにて「令和元年度 千葉大学校友会総会」を開催しました。校友会は、2002年に発足した千葉大学全学の同窓会組織です。

総会には、76名の校友会員が参加。徳久剛史会長(千葉大学長)より挨拶があり、2018年度活動・収支決算報告および2019年度活動計画・予算等が審議され、承認されました。



よくわかる!!

# 千葉大学医学部附属病院 DMAT

DMAT = Disaster Medical Assistance Team

## 災害派遣医療チーム DMATと千葉大学医学部附属病院

DMATは、大地震等の災害発生から48時間以内に現場で活動を開始できるように、医師・看護師・業務調整員<sup>※1</sup>ら約5名で編成する医療チームです。厚生労働省が認めたDMAT研修を受講することで、日本DMATとして認定されます。

阪神淡路大震災をきっかけとして生まれたDMAT。発足当時は急性期における災害現場での医療活動を目的としていましたが、現在は急性期から平常時へと向かっていく過程で果たせる役割(避難所での健康管理等)や、他チーム・保健所へ引き継ぐまでを含めひとつの活動と捉えるなど、災害ごとのニーズに基づいて徐々に変化しています。

医学部附属病院のDMATは、2007年4月に発足してから今年で13年目。現在は日本DMAT<sup>※2</sup>が18人、CLDMATが18人で活動しています。



日本DMAT	7人	5人	6人
CLDMAT(千葉DMAT)	5人	5人	8人

※1 業務調整員(ロジスティック、通称ロジ)  
医療機器や薬剤等の資材管理と、DMATの活動に必要な連絡、調整、情報収集、記録を担当。医学部附属病院では、事務員・薬剤師・理学療法士・臨床工学技士などが行っています。

※2 CLDMAT(千葉DMAT)  
Chiba Limited Disaster Medical Assistance Teamの略。災害急性期における千葉県内の医療の確保を図るため、出動先を千葉県内に限定して活動する千葉県地域災害派遣医療チームです。



千葉大学医学部附属病院のDMAT隊の制服。足元は安全靴で、医師は赤、看護師は緑、業務調整員は黄色のベストを着用しています。

ICU/CCU 看護師 山田香織  
集中治療部 医師 松村洋輔  
災害予防対策室長 集中治療部 医師 安部隆三  
ICU/CCU 看護師 内田康一  
企画情報部 技術職員 貝塚伴子

### 常に災害に備える



定期的に隊員が集まって情報共有や資機材のチェックを行っています。また、技能維持研修や定期的な訓練に参加し、いざというときにすぐ出動できるよう体制を整えられるのは、隊員だけではなく、所属先の理解と協力があるからです。病院外では内閣府が企画する「大規模地震時医療活動訓練」、関東ブロック訓練、千葉県が企画する保護訓練(2019年度は幕張メッセで爆弾テロを想定した訓練が行われました)、成田空港の訓練等にDMATとして参加。また、院内の法定訓練時には、DMAT隊員はアドバイザーとしても活躍しています。

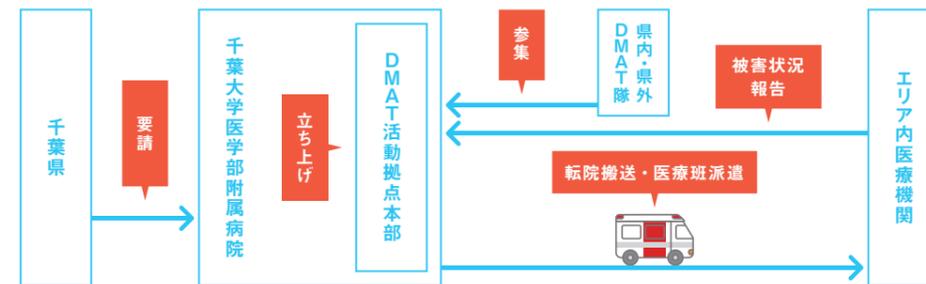
### 台風15号時の活動(2019年9月)

9月8日から9日未明にかけて関東を暴風域に巻き込みながら北上し、暴風や河川の増水、土砂災害などをもたらした台風15号。同日に千葉県災害対策本部からの要請を受け、千葉・市原・山武長生夷隅医療圏のDMAT活動拠点本部を院内に立ち上げました。約4日間の活動では、県外から参集した計29のDMAT隊を指揮しエリア内の医療機関における被害状況や診療状況などの情報収集を行い、必要な人・物を必要な医療機関に送り、治療が必要な患者さんの転院搬送を行いました。

活動拠点本部では、災害医療に興味があり災害訓練に向けてトレーニングを行っていた延べ40人弱の医学部生・看護学部生・研修医が協力し、外部から入る情報をもとにクロノロジー<sup>※3</sup>や体制図を作成するなど、トレーニングの成果を発揮してくれました。参加した学生たちからは、「災害時に何かしたいという気持ちがあり、今回、病院内の本部活動で直接的に医療として参加できた。こういった活動が災害時に必要とされているのかを実感できた」という声も。

その他、医学部附属病院では山本病院長の指示のもと、患者が集中していた東千葉メディカルセンターへの医師・看護師の派遣を行いました。

※3 クロノロジー(通称クロノロ)  
物事を時系列に記録することで情報の共有化を図るために作成するもの。



院内に立ち上げられたDMAT活動拠点本部



クロノロジー作成の様子



クロノロジーをもとに行われる会議



千葉大学医学部附属病院の救急車

### 東日本大震災での活動(2011年3月~)

2011年3月11日、宮城県からのDMAT派遣要請を受け、医学部附属病院からは1隊ずつ計3回出動しました。3月15日からは医療救護班を派遣。東京大学・名古屋大学と交代しながら避難所の診療所等を回って、被災者の健康チェックや物資運搬等の支援を行いました。また、「こころのケアチーム(現在の「DPAT<sup>※4</sup>」)が計15班、半年にわたって定期的に赴き、被災者のメンタルヘルスケアを行いました。

※4 DPAT  
Disaster Psychiatric Assistance Teamの略。自然災害や集団災害後、被災地域に入り精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチーム。



千葉大学医学部附属病院災害予防対策室長(日本DMAT隊員・統括DMAT) 安部隆三 講師

災害発生時は、まず自分自身の安全確保を第一に考えて行動してください。私たちは、必要な人に必要な医療を提供するための訓練を行い、常に準備しています。災害対応やDMAT活動に興味のある方は、当院における訓練などに参加することもできます。今後当院の救急科Facebook等で情報提供していくので、ぜひチェックしてみてください。

## 地域の中にいるからこそできることがある。 訪問看護を足掛かりに将来はコミュニティナースへ

訪問看護ステーション フレンド 所長  
がん看護専門看護師

# 奥 朋子 さん

### がん患者さんの 役に立ちたいという思いで がん看護専門看護師の認定を取得

— 現在の訪問看護のお仕事について教えてください。

**奥** 訪問看護ステーション フレンドのスタッフは現在4名。地域に密着したいという考えで、事業エリアはあまり広げすぎず、千葉市内がほとんどです。訪問看護は基本的に1人で利用者さんのお宅にうかがい、ご家族や地域の訪問診療医師などと協力しながらケアをします。利用者さん1人当たりの看護時間は短い人で30分、長い人で1時間半ほど。1人の看護師が1日で3軒から多い時で5軒ほど回っています。また、私自身は訪問看護の実務以外に、非常勤として千葉大学医学部附属病院で勤務したり、講演活動や医療雑誌への寄稿をしています。

— がん看護専門看護師という肩書をお持ちですが、がんを専門にしようと思ったのはどのような経緯があったのでしょうか。

**奥** がん看護専門看護師の認定を取得したのは2006年です。当時は千葉大学医学部附属病院の外科に勤務していて、普段からがん患者さんと接することが多く、あるとき、乳がん患者さんの集まりに参加する機会がありました。現役看護師である私は、その集まりでいろいろな相談を受けたのですが、知

識不足できちんとした回答ができなかったんです。看護師は患者さんの療養生活、社会生活に伴走する存在でなければいけないのに、これでは本当の意味でお役に立っているとはいえないと思い、がんのことを勉強し直そうと考えたのがきっかけです。看護の幅が広がっただけでなく、体系的にしっかり学んだおかげで、後輩の看護師に教えられるようになりましたし、現在の訪問看護でがん患者さんと接する際にも役立っています。

### 地域の中で患者さんと 向き合いたいと思い、 病院看護から訪問看護の道へ

— 2018年3月に訪問看護ステーションを立ち上げられていますが、その理由はどのようなもののでしょうか？

**奥** 病院看護と訪問看護はそれぞれの役割があると思います。病院、特に大学病院の場合は、症状が重篤化して根治治療が困難な状態の患者さんが来院されるケースが少なくありません。こうした患者さんをケアすることにはもちろん大きな意義がありますが、地域の中で患者さんと接することで、もっと早い段階で適切な治療にアクセスできたり、多くの方の健康意識を高めたりできるのではないかと考え、訪問看護に取り組むことにしました。私にとって訪問看護は、単に利用者さんの自宅にうかがってケアをするというだけではなく、地域の中に入って利用者さんと向き合うという重要な意味があるんです。

— 今後の目標や夢があったら教えてください。

**奥** 私が最終的に目指しているのは、コミュニティナースです。コミュニティナースとは、地域の中で住民とパートナーシップを形成しながら活動する医療人材のことで、島根県や奈良県などの過疎地域では、自治体が

看護師としての経験を積み、  
務める訪問看護ステーション  
がん看護専門看護師として地  
活動をやる奥朋子さんに訪問  
将来の夢、千葉大学時代の思  
語っていただきました。

自らが所長を  
を開設。  
域に根ざした  
看護のやりがいや  
い出などを



奥 朋子(おく・ともこ)  
訪問看護ステーション フレンド所長。がん看護専門看護師。千葉大学看護学部卒業後、千葉大学医学部附属病院に勤務。外科病棟でがん患者と接したことをきっかけに、2006年にがん看護専門看護師の認定を取得。2017年に合同会社ウェルネスアトリウムを立ち上げ、2018年3月から訪問看護ステーション フレンドを運営。

コミュニティナースを雇用して地域医療の中心的存在になっているケースもあります。過疎や高齢化の問題を考えたときに、今後の地域医療の形としてコミュニティナースの必要性は全国的にますます高まるはずで、訪問看護とも密接にかかわっていると私は考えています。今は訪問看護ステーションをしっかり軌道に乗せることを優先していますが、コミュニティナースの研修に参加するなど、未来に向けた準備も始めています。

### 看護に対する考え方や姿勢が 鍛えられ、多様な価値観に 触れた学生生活

— 千葉大学で学んだことで、今の仕事に生きていることはありますか。

**奥** 仕事に対する考え方や姿勢は、千葉大学の看護学部時代にしっかり仕込んでいただいたと思っています。看護というのは感覚的にするのではなく、なぜそうすべきなのかという理由や根拠があります。授業でも実習でも、そういう点について先生から繰り返し質問を受けるので、振り返りをするプロセスが自然と身につく。結果として看護に対する理解が深まりました。根拠に基づいた看護が身につくと、自分がいま何をすべきかという優先順位の判断にもつながりますし、頭で整理されていけば言語化して人に伝えることもできるので、後進の指導や講演活動など、さまざまな場で役に立っています。

— 最後に、千葉大生へのメッセージをお願いします。

**奥** 大学は各学部に分かれて専門分野の知識を深めていく場ですが、自分の学部に関心をもつだけではなく、他学部の人と積極的に交流することをお勧めします。なぜなら、大学には違う価値観を持った人、多様な考えの人がたくさんいるからです。私自身、西千葉キャンパスの吹奏楽団に所属し、いろいろな意見を持つ人々と出会ったことで、考え方の幅が広がったと思います。当時の友人とは今でも付き合いがありますし、看護師として多様な患者さんと接する上でも、学生時代に違う価値観を持った人と交流を持ててよかったと感じています。特に医療系学部の皆さん、千葉大学はせっかく総合大学なので、他学部の学生と交流できるというメリットを最大限に活用してください。そうした交流は、医療人として世の中に出たときに必ず役立つと思います。

日本の法医学の発展のために尽力し、  
千葉大学での先駆的な取り組みも  
メディアで話題になっている岩瀬教授。  
法医学という学問の醍醐味や、  
今後のビジョンについて  
伺いました。

研究室  
訪問 19



千葉大学 大学院医学研究院附属  
法医学教育研究センター

## 私たちが生きる社会の 安全に貢献する 「法医学」という学問



岩瀬 博太郎(いわせ・ひろたろう)  
千葉大学大学院医学研究院法医学教室教授。東京大学医学部卒業。東京大学大学院医学研究院法医学教室助手、講師、助教授を経て、2003年に千葉大学へ赴任。2014年より千葉大学附属法医学教育研究センターの初代センター長を務める。

や毒物検査など、ごく当たり前の検査さえも予算がなくて全くできませんでした。結果的に、法医学教室にはろくな検査設備もなく、法医学が魅力ある現場とは言い難い状況でした。そのせいか、私は38年ぶりの東大卒の法医学者でした。これは何とかしなければと痛感しました。

### それからどのような取り組みを進めていったのでしょうか

2003年に千葉大学に赴任した時、当時の学部長に「解剖時の検査代などを請求して、財源と人材を増やしましょう」と提案しました。快く賛同していただき、その後は学部長と共に県警本部に要望書を提出したり、メディアに情報提供をした結果、「日本の死因究明制度には問題があり、犯罪が見逃されている」などと議論されるようになりました。こうした活動によって法医学が徐々に認められるようになり、大学でCT装置や薬物検査の機材なども導入でき、人材も確保できるようになりました。日本の法医学が進歩したのは、千葉大学の存在が大きかったと感じています。

### 最後に千葉大生へのメッセージをお願いします

千葉大学は、みんなが一丸となってチームとして取り組むことができる、とてもまとまりのある大学です。看護学部、薬学部、理学部、法政経学部など、法医学に関わる領域は幅広いので、今後何らかの形で連携して取り組んでいければと思っています。

実務が軽視されているような雰囲気を感じてしまい、自分には合わないと思いました。そんな時に、お神酒が振る舞われると聞いて軽い気持ちで出入りしていた法医学教室の教授から「法医学はどうだ？やりたいことができるよ」と勧誘され、その言葉につられて入局しました。ところが入局してびっくりしたのは、日本の法医学が非常に遅れていることです。当時は解剖をしても大学にお金が支払われなかったため、薬物



左：法医学教室の旅行で秩父を訪れた時の写真。「アンナチュラル」「監察医 朝顔」などのテレビドラマの影響で、法医学に興味を示してくれる学生も増えてきました。右：解剖鑑定を通じて犯罪捜査に協力したことに対し、千葉県警から贈られた感謝状。



右：解剖鑑定を通じて犯罪捜査に協力したことに対し、千葉県警から贈られた感謝状。

### 法医学教育研究センターでは、どんなことに取り組んでおられますか

法医学といえば、事件性が疑われたり死因が不明な遺体の死因究明をするイメージが強いのですが、当センターではそれに加え、生きている人を対象にする「臨床法医学」にも組織的に取り組んでいます。医師と保健師、看護師、歯科医、放射線科医がチームを組み、児童虐待や老人虐待、DVなどにおける損傷の評価を正確に行い、かつデータの蓄積によって虐待などの再発防止に寄与することを目的としています。このように法医学は、医学を活用して社会全体の安全や権利に貢献する、非常に意義深い分野でもあります。

### 法医学を学ぼうと思われたきっかけは何だったのでしょうか

医学部生時代には内科や皮膚科を希望していたのですが、当時、研究ばかりが重視され、



今回のレポーター



文学部・国際言語文化学科・3年  
渡邊 莉瑚(わたなべりこ)さん

参加した留学プログラム

グローバルボランティア

行き先▶ タンザニア ..... 期間：2018.2.11～3.28

### ナーサリースクールでのボランティア

グローバルボランティアに参加したきっかけは、もともと途上国の子どもの教育環境に興味があったから。中でも特にイメージの湧いていなかったアフリカに行ってみようと思っていました。

タンザニアでは、「ナーサリースクール」という3歳から7歳の子どもが通う学校で、アルファベットの読み書きや英語、算数を教えたり、一緒にスポーツをしたりしました。先生たちのアシスタントをすることもあれば、私が授業を任されることも。「ナーサリースクール」では、本来は3クラスなければならないところ、教室や先生が足りていないことから2クラスしかなく、同じ教室に4歳から7歳までいる状況でした。英単語を書ける子どもいれば、文

字を書くのもやっとなの子がいて、授業を行うことがなかなか難しかったのをよく覚えています。最初は文字も書けなかった子が、教えていくにつれてだんだんと書けるようになっていったときはとてもうれしかったです。

### 留学は行ってみたいとわからない！

タンザニアは日本と生活がまったく異なり、毎日が驚きと発見にあふれていました。シャワーがないのでバケツで水浴びしたり、朝はサルが屋根の上を走る音で目覚めたり。タンザニアの経験をもとに、国際協力に興味を持つようになりました。日本で「世界には学校に行けない子どもが〇人います」といった数字を見ることがありますが、実際にその数字の

中にいる人たちに会って話すことで、自分にとってそれはただの数字ではなく、より現実的なものになりました。また、アフリカの民族にも興味を湧いたので、次はナミビアや南スーダン、ルワンダに行ってみようと思います。

自分がやりたいことや興味があること、行きたい国などを考えて自分にあった留学をするのが一番だと思います。私はタンザニアに行ってから、国際協力や他のアフリカの国々に興味を持つようになりました。まだ卒業後の進路は決まっていますが、留学によって選択肢が増えたのは確かです。留学は「行ってみたいとわからない」というのは間違いなので、迷っているなら勇気を出して行ってみることをオススメします！



◀ 授業の様子。子どもたちと一緒にアルファベットを書き、一人一人のノートチェックをしました



▲ 毎週金曜日はスポーツデーと言って、みんなでサッカーをするなどちょっとしたアクティビティをしました



▲ 「ナーサリースクール」の子どもたちとの集合写真

### 留学プログラム紹介

#### グローバルボランティア

環境保護、幼稚園での活動、貧困地域での子ども支援などの海外のフィールドでさまざまなボランティア活動に従事します。プログラムによって、他大学の学生・社会人や他国の学生・社会人と共に活動する場合も。グローバル社会における課題を発見し、多様な視点から現実社会の理解を深め、その課題と向き合っていくために必要とされる考え方、幅広い教養、実践的な知識を身につけることを目標としています。

詳細はこちら！

[https://skipwise.chiba-u.jp/course/overseas\\_experience/index.html#global\\_volunteer](https://skipwise.chiba-u.jp/course/overseas_experience/index.html#global_volunteer)



INFORMATION

内閣府「イノベーション創出環境強化事業」に採択

千葉大学がイノベーション創出のための新たな産官学連携拠点として計画している「イノベーション・マネジメント・オフィス（仮称）」の設立構想が、内閣府が令和元年度に新設した「イノベーション創出環境強化事業」に採択されました。既存の産学連携・研究推進部門の機能をさらに発展させ、民間セクターからの外部資金獲得を大幅に増加させることにより、基盤研究支援を含むサステナブルな研究力強化サイクルの実現を目指します。

INFORMATION

植物分子科学研究センター・インテリジェント飛行センターを設置

2019年10月1日、地球と人類を支える植物分子（特に、遺伝子と成分）に注目し、環境下におけるゲノム解明とその応用を研究する「植物分子科学研究センター」と、生物規範に基づき、空の産業革命を実現する新飛行ロボットや小型無人航空機（ドローン）の研究・開発・産業化を目的とする「インテリジェント飛行センター」を設置しました。



「植物分子科学研究センター」看板上げ式 「インテリジェント飛行センター」キックオフシンポジウム

OBOG MESSAGE

確かな“きずな”を未来へ。株式会社京葉銀行 渡辺 聡子さん 吉野 瑛二さん

千葉大学の思い出

大学時代はサークル活動やアルバイトなどを通じてさまざまな人と関わる中で、コミュニケーション力など人間形成の面で大きく成長できたと思います。千葉大学の広々としたキャンパスは好きだったので、授業がなくても学校に行きキャンパスライフを楽しんでいました。（吉野）

現在の仕事について

人事部人材開発グループという部署で採用活動や社員研修に携わっています。銀行の仕事は人と人との繋がりが何よりも大切であるため「人財」を採用し活躍をサポートすることは、非常に重要な仕事でやりがいを感じています。（吉野）

吉野さんの所属する人事部を統括しています。また、働き方改革推進担当部長として、女性活躍推進をはじめとする「ワーク」も「ライフ」

も大切にしたい働きやすい組織づくりを行っています。実際に子育てと両立しながら働く女性行員が京葉銀行には数多くいます。（渡辺）

千葉大生へのメッセージ

京葉銀行は「お客様目線」のサービスを第一に千葉県の成長・発展をサポートしております。銀行の仕事は非常に面白い仕事です。多様なお客様と接する中で、人生においても、これほど勉強になる仕事はないと思います。後輩の皆さんに京葉銀行の仕事を知っていただくと嬉しです。（吉野）

女性が活躍するための支援はもちろん、イクメン企業としても国から表彰されており、男女ともに安心して持てる能力を発揮できる環境を整えております。当行には大学生生活を通じて千葉県に愛着を感じ、地元で貢献したいという志を持った行員が多く在籍しています。千葉県の成長・発展を我々と一緒に支えてくれる皆様をお待ちしております。（渡辺）



渡辺 聡子 (わたなべ・さとこ) 1990年 法経学部法学科卒業  
吉野 瑛二 (よしの・えいじ) 2012年 法経学部経済学科卒業

● 株式会社京葉銀行と千葉大学環境ISO学生委員会は、2017年から協同で「千葉大学×京葉銀行 ecoプロジェクト」を行っています。●



大学生向けのインターンシップで「銀行の仕事」について話す吉野さん

京葉銀行 <https://www.keiyobank.co.jp/>

京葉銀行は「お客様に信頼と利便性、高い満足度を提供できる魅力ある、活力あふれる銀行」を目指し、地域の皆様とともに成長・発展しております。多様化するお客様のニーズに対応するため、従来の「地方銀行」の型にとらわれることなく、常に「今の京葉銀行」を超えることに挑み続けています。京葉銀行には挑戦を歓迎し評価する社風が根づいています。

AWARD

吉田滋教授・石原安野教授が仁科記念賞を受賞



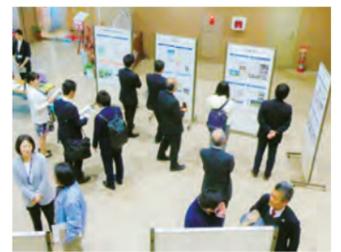
12月6日に東京會館にて行われた授賞式。右から吉田教授、石原教授

2019年11月7日、大学院理学研究院の吉田滋教授とグローバルプロミネント研究基幹の石原安野教授が、優れた業績をあげた物理学者を表彰する仁科記念賞を受賞しました。「超高エネルギー宇宙ニュートリノの発見」等の研究成果が国内外で高く評価され、今回の受賞につながりました。

EVENT

ローカルちばでキラリと光る！COC+フォーラムを開催

2019年11月29日、けやき会館において、千葉県内でのキャリア形成のポテンシャルについて考える「千葉COC+2019年度フォーラム ローカルちばでキラリと光る！」を開催しました。COC+とは、千葉大学が推進している地（知）の拠点大学による地方創生推進事業です。第一部のパネル展示では千葉大学とCOC+に参加している5大学による5年間の活動報告が行われ、



けやき会館ロビーで行われたパネル展示の様子

第二部のフォーラムでは「千葉での起業を語る」「地域のためにはたらく」をテーマに、若手OBによる働き方や自身のライフスタイルについての講演やディスカッションが行われました。

INFORMATION

千葉大学オリジナルグッズが増えました！

千葉大学マスコットをパッケージに使用した千葉大学オリジナルデザイン缶入りフルセックと、「タイランド・千葉大学コーヒー」の販売を開始しました。千葉大学コーヒー第3弾となる本コーヒーは、タイ産の豆を使用しスパイスで深みのある味わいが特徴。パナマやメキシコとはまた異なるフレーバーをお楽しみいただけます。



西千葉キャンパス インフォメーションセンター等に好評発売中

CHIBATOMOものがたり 3時限



学生・若手研究者のチャレンジを支え、未来を育てる 千葉大学 SEEDS 基金

千葉大学SEEDS基金は、ご寄附のもとに、学生の生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などを行っています。次世代を担う若者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



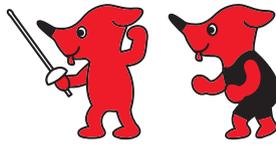
ホームページから寄附の申込みができます  
詳しくは <http://kikin.chiba-u.ac.jp>





燃え上がれ! 盛り上がれ!!

**CHIBA**  
スポーツ応援団



千葉県PRマスコットキャラクターチーバくん 千葉県許諾: 第A1294-5号

千葉大学は「オール千葉」の一員としてスポーツを応援しています。

## INDEX VOL.50

### 02 千葉大学創立 70 周年記念シンポジウムを開催しました

創立 70 周年を迎えた千葉大学。11 月 2 日にけやき会館で開催した記念シンポジウムの様子をレポートします。



### 04 よくわかる!! 千葉大学医学部附属病院 DMAT

2007 年の発足以来、県内外での災害発生時に活躍する千葉大学医学部附属病院 DMAT の活動に迫りました。



### 06 千葉大学 OBOG インタビュー

訪問看護ステーションを自ら立ち上げ、地域医療の将来を見据える OG が登場!



### 08 研究室訪問

社会全体の安全や権利のために、日本の法医学の発展に尽力する。  
— 千葉大学 大学院医学研究院附属 法医学教育研究センター —



### 09 ちばだいグローバル LETTERS

タンザニアの学校での「グローバルボランティア」を経て、興味も進路の選択肢もさらに広がりました!

### 10 TOPICS /

OBOG MESSAGE 株式会社京葉銀行 渡辺 聡子さん 吉野 瑛二さん

**ちばだい**  
**プレス**  
CHIBADAI  
PRESS  
千葉大学  
広報誌

**CHIBA**  
**UNIVERSITY**  
70 years anniversary  
1949・2019

編集・発行 / 千葉大学 企画総務部 渉外企画課 広報室  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号  
TEL: 043-251-1111(代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp  
ご意見・ご感想をお寄せください

[www.chiba-u.ac.jp](http://www.chiba-u.ac.jp)

[表紙]

千葉大学医学部附属病院 DMAT の皆さん



災害発生後、被災者の命を守るため、おおむね48時間以内に活動を開始できる機動性を持った災害派遣医療チーム「DMAT」は、医師・看護師・業務調整員ら約5名でワンチーム。ブルーの制服とそれぞれの役割に応じて色分けされたベストが千葉大学医学部附属病院DMATのトレードマークです。千葉県災害拠点病院として、いざというときにすぐ出動できるよう、常に体制を整えています。  
(撮影: 医学部附属病院 外来診療棟前)